

北海道通信

平田建設が小学校の閉校事業に協力

99年間ありがとう！

地上絵をドローンで撮影



ドローンを使って地上絵を撮影すると、児童(手前)からは歓声が上がった

同社では地域に根ざす建設企業として、地元からの要望等を踏まえながら、様々な地域貢献活動を展開している。

今回は、十勝総合振興局発注の「畑地帯(育成)西上第2地

【帯広発】(株)平田建設(土幌、長谷川雅毅社長)は15日、本年度末で99年の歴史に幕を閉じることとなった町立西上音更小学校の閉校記念事業に協力した。「99年間ありがとう」などと書かれた畑の地上絵を、同社がドローンを使って撮影。撮影された空撮写真は、同校の閉校記念誌の表紙として活用される。

区61工区」を施工している関係から、地域貢献を行うことに。地元農家が校舎に隣接する畑に校章と「99年間ありがとう」というメッセージの地上絵を作成したものを、同社が児童らとドローンを使って撮影した。上空からの画像を見た児童からは「上から見ると思っていた以上に大きく描かれていて驚いた」と出来

上がりに歓声が上がった。撮影を行った現場代理人

の松崎光善課長は「99年という長い歴史に最後までかわることができたことと、子どもたちの笑顔が見られたい。これからも地域のためにできることを積極的に行なっていきたい」と話した。

北海道建設新聞

平田建設

地上絵をドローン撮影

西上音更小閉校記念に協力

【帯広】平田建設(本社・土幌)は15日、畑に描かれた地上絵のドローン撮影を通じ、土幌町立西上音更小の閉校記念事

業に協力した。

同小は、2018年度末で99年の歴史に幕を閉じる。地元農家の有志ら

畑に描かれたメッセージをドローンで撮影した



が同校に隣接する畑に校章と「99年間ありがとう」というメッセージの地上絵を作成し、同社が児童らに交えてドローンで撮影した。

畑地帯(育成)西上第2地区61工区の地域貢献事業として実施。画像を見た児童からは「上から見ると思っていた以上に大きく描かれていて驚いた」と歓声が上がった。撮影した現場代理人の松崎光春課長は「長い歴史に最後まで関わることができ子どもたちの笑顔が見られてうれし」と話していた。撮影された空撮写真は同校の閉校記念誌の表紙となる。